



MINAGAWA Masahiro

皆川 正寛

今取り組んでいる研究の面白いところを教えてください

現行のセンサでは収集できない情報を新たに取得できる新型センサの開発を行っています。伸び縮みを感知できるセンサ、たわみやひずみをリアルタイムで検知できるセンサ、または義手や義足への感覚機能の実装を目指した大面積フレキシブルシート状圧力・温度センサなど、「まだ開発されていないけれど、実現されればきっと人類の生活を豊かにできる」といった夢を描くことができる点が、今取り組んでいる研究の面白いところだと思います。

高専の教員になったきっかけを教えてください

仮に、お客様の要求仕様に基づき何かのシステムを組み立てようとした場合、当然組み立てに必要なパーツや工具が必要になります。しかし、それらのうちの一つでも既製品として販売されていなかったらあなたはどうしますか？その場合は、それがソフトでもハードでも自分で設計して作らなければなりません。「自分はソフト屋だから機械加工のことはよくわかりません」と限界を設定してしまえばお客様が満足する製品は作れません。実際の開発現場では、分野を問わず総合的技術・知識が必要とされます。もちろん英語なども含まれます。自身が民間企業で長年経験してきた「開発現場で実際に求められる知識・技術・スキルは何か？」を若い学生に伝えたいと思い高専の教員になりました。

電子制御工学科

准教授／博士（工学）

（職位は2021年3月時点）

研究分野 有機エレクトロニクス

リサーチマップ

<https://researchmap.jp/read/0151499>

高専の教員になっていかがですか

実際に高専の教員になってみると、若い学生たちに囲まれ毎日元気をもらえることが分かります。また、長い人は専攻科を含め7年間高専に在学するので、15歳から22歳という一番人間が成長する過程を目の当たりにすることができます。その姿を見て私自身も刺激をもらい成長していきたいと感じさせてくれます。

「先生、お世話になりました」と言って巣立っていく学生の背中を毎年見送っていますが、このような経験はサラリーマンではなかなかできません。社会人になれば、どんな職業でも「レジリエンス力（私は、少し意味合いが異なりますが昔から「前向き力」と呼んでいます）」が必要になります。高専教員も例外ではありません。しかし、高専教員は学生に毎年のように「先生って、いい職業だなあ」と感じさせてもらえるやりがいのあるお仕事だと思います。

